



東北大學

ISSN 2185-5196

# 東北大學埋蔵文化財調査室 年次報告2007



仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11）  
地鎮造構の輪宝文を描いた皿の出土状況

**東北大学埋蔵文化財調査室  
年次報告2007**

# 東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2007

## 目 次

I. 卷頭言	1
II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要	2
1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査	2
2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設	3
3. 運営委員会・調査部会	6
III. 2007年度（平成19年度）事業の概要	7
1. 埋蔵文化財調査の概要	7
(1) 川内北地区の調査	8
(2) 川内南地区の調査	13
(3) 青葉山北地区の調査	15
(4) 青葉山東地区の調査	18
(5) 富沢地区の調査	19
(6) 川渡地区的調査	19
2. 遺物整理作業	22
3. 保存処理事業	22
4. 資料保管状況	23
5. 研究活動	23
(1) 受託研究・共同研究等	23
(2) 学会発表等	26
(3) 科学研究費採択状況	26
6. 教育普及活動	26
(1) 非常勤講師	26
(2) 授業など教育活動への協力	26
(3) 保管資料の貸出	26
(4) 外部からの派遣依頼等	26
(5) 広報活動	27
《引用・参考文献》	
IV. 資料	29
1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程	29
2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2007年度）	31
3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2007年度）	31
4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧	32

## I. 卷頭言

このたび東北大学埋蔵文化財調査室では、「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告」を、新たに刊行いたします。東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。現在の特定事業組織という組織形態になったのは、平成18年度（2006年度）のことですが、東北大学での構内遺跡の調査組織は、昭和58年度（1983年度）の埋蔵文化財調査委員会の設置にさかのぼります。その後、平成6年度（1994年度）に学内共同利用施設の埋蔵文化財調査センターに改組され、さらに平成18年度に現在の特定事業組織に改組されています。そのため、東北大学における構内遺跡の調査の歴史は、本年次報告で事業概要を報告する2007年度で、25年目を迎えることとなります。

これまで、埋蔵文化財調査室では、「東北大学埋蔵文化財調査年報」（以下「調査年報」と略記）を、1から24まで刊行してきました。この「調査年報」には、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきました。

発掘調査の報告については、学術的な検討に資する詳細な報告が求められます。出土した遺物量が多い場合、整理作業に時間を要するため、「調査年報」の刊行は、調査実施年度から数年後となるのが通常でした。発掘調査の規模が大きいと、「調査年報」の頁数も必然的に増加し、300頁を越える大冊となる場合もあります。

一方、事業概要の報告は、できるだけ早く行う必要があることは言うまでもありません。大学の法人化後、各組織の事業内容が、様々に評価されるようになっており、今まで以上に事業概要を迅速に報告することが求められています。また事業概要報告には、埋蔵文化財調査室の業務を広く知りたいという目的もあります。

これまでの「調査年報」では、年度ごとの事業概要と発掘調査の詳細な報告を併せて掲載していたため、結果的に事業概要の報告が遅くなっていました。また、頁数の多い大冊となるため、調査室の概要を知りたいなどという目的には、必ずしもふさわしくないものでした。このような理由から、年度ごとの事業概要の報告と、発掘調査の報告を、分離して刊行していくこととしました。今後は、年度ごとの事業概要については、「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告」という形で、毎年報告していく予定です。調査室の事業について、より広くご理解いただけるよう、わかり易いものにしていきたいと考えております。

本調査を実施した発掘調査報告については、「東北大学埋蔵文化財調査室調査報告」というシリーズ名で、各調査ごとに、調査報告書を刊行していく予定です。それぞれの調査について、整理作業が終了次第、順次刊行していくこととしたいと考えています。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2007年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、および他の調査室が実施した事業について概要をとりまとめて、報告いたします。2007年度は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線建設による機能補償に伴う調査が、事業の中心となりました。地下鉄東西線機能補償に係わる事業では、取り壊される武道場や食堂の代替えの建物（川内サブアーナ棟）建設や、給水管の移設に伴い、発掘調査を実施しました。これら地下鉄東西線機能補償に係わる調査は、仙台市からの補償費を財源として実施しています。通常業務に加えて、これら事業を迅速に実施することが必要でした。そのため補償費を財源として、2009年度までの任期付きで、文化財調査員1名（一般職員）と技術補佐員1名（准職員）を2007年度当初より増員することとなりました。これまでに経験のないことも多くありましたが、幸い学内外の関係機関や関係者のご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼を申しあげるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香

## II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要

### 1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査

東北大学には、仙台市内の各キャンパスに加えて、多くの研究施設がある。これらの各地區構内には、多くの埋蔵文化財が存在している（表1、図1）。特に川内地区は、ほぼ全域が近世の仙台城跡の二の丸地区と武家屋敷地区にあたっている（図2）。

現在の日本においては、これらの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）において掘削を伴う工事を実施する場合、文化財保護法に基づく届出が義務づけられている。工事の掘削によって遺跡が壊される場合には、計画の中止や変更によって遺跡を現状で保存することが、文化財保護の観点では最善である。しかし現実には、現状保存は難しい場合が多い。そのため、やむを得ない場合には、発掘調査を行い記録を作成することで、現地保存の次善の策とする記録保存という方法が取られている。記録保存のための発掘調査は、経費を原因者が負担した上で、地方公共団体が実施するのが基本である。

一方、構内に遺跡が存在する大学では、施設整備事業などの工事に先立つ記録保存のための調査を実施する組織として、大学内部に埋蔵文化財調査を担当する組織を設けることが進められてきた。考古学や関連する学問分野の専門研究者が大学内部に所属している場合には、学術的に充分な検討がなされるという社会的信頼に基づき、大学独自の埋蔵文化財調査組織が設けられ運営されている。同時に、学内に調査組織を設けていると、大学独自のペースで調査を進めることが可能となり、結果的に迅速な調査と施設整備事業の円滑な推進が図られる。また、地方公共団体の間では、大学が独自に調査することによって負担軽減につながるという側面もある。それぞれの事情が整合する中で、大学内部に独自の埋蔵文化財調査組織が設置されてきた。

表1 東北大学構内の遺跡

所在地名	所在地住所	遺跡名	県道跡番号	時代	備考
川内1	仙台市青葉区 川内27-1・41他	仙台城跡	01033	近世	二の丸地区・二の丸北方武家屋敷地区・御裏林地区
	仙台市青葉区 川内12-2	川内古碑群	01386	縄文	弘安10年（1287）・正安4年（1302）他
	仙台市青葉区 川内41	川内B遺跡	01565	縄文・近世	
青葉山2	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山B遺跡	01373	縄文・弥生 古代	
	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山E遺跡	01443	縄文・弥生 古代	
青葉山3	仙台市青葉区 荒巻字青葉468-1	青葉山C遺跡	01442	旧石器	
	仙台市太白区 三神峯一丁目101	芦ノ口遺跡	01315	縄文・弥生 古墳・古代	
川渡	大崎市鳴子温泉 大口字蓬田	上川原遺跡	36006	縄文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	丸森遺跡	36038	縄文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	東北大農場2・3号畠遺跡	36098	縄文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町西	町西遺跡	36106	弥生	
小糸浜	牡鹿郡女川町 小糸浜	小糸浜B遺跡	73021	縄文	宿舎裏の山林部分

東北大においても、同様の理由から、学内に独自の埋蔵文化財調査組織を設け、組織的に対処することとなり、1983年度に東北大埋蔵文化財調査委員会が設置された。これ以降、東北大構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、その調査委員会の実務機関である埋蔵文化財調査室が、調査の任にあたってきた。1994年度には、埋蔵文化財調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置され、調査委員会の事業を引き継いだ。2006年度からは、特定事業組織としての埋蔵文化財調査室へと改組され、センターの事業を引き継いでいる。なお、埋蔵文化財調査委員会の設置から埋蔵文化財調査研究センターにいたる経緯については、「東北大百年史七」においても、概要が紹介されている。

## 2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設

埋蔵文化財調査室の職員は、併任の調査室長1名、文化財調査員3名（うち特任准教授1名、専門職員2名）、事務補佐員1名（時間雇用職員）、および整理作業を担当する作業員（時間雇用職員）からなっている。

2007年度は、仙台市高速鉄道東西線（以下では地下鉄東西線と呼称）建設による機能補償に伴う調査が、事業の中心となった。地下鉄東西線機能補償に係わる事業では、取り壊される武道場や食堂の代替えの建物（川内サブアリーナ棟）建設や、給水管の移設に伴い、発掘調査を実施した。これら地下鉄東西線機能補償に係わる調査は、仙台市からの補償費を財源として実施した。通常業務に加えて、これら事業を迅速に実施することが必要であった。そのため補償費を財源として、2009年度までの任期付きで、文化財調査員1名（一般職員）と技術補佐員1名（准職員）を2007年度当初より増員することになった。これら補償費を財源とした職員を含む、2007年度の埋蔵文化財調査室の職員は、表2の通りである。

埋蔵文化財調査室を運営するにあたって必要な経費は、埋蔵文化財調査室運営費として措置されている。内訳は、事務補佐員1名の入件費と、光热水料、自動車維持費、消耗品費などである。

発掘調査については、事業費の中に組み込まれる形で、事業ごとに予算化されている。

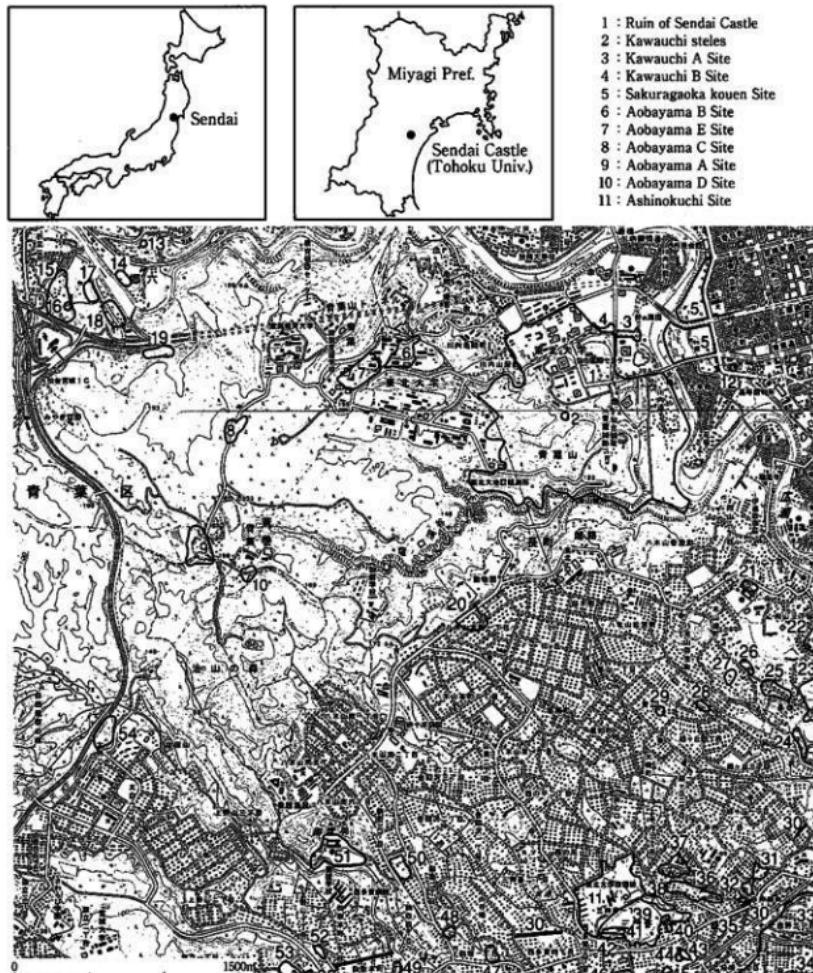
調査終了後の整理作業と報告書印刷刊行費については、全学的基盤経費によって措置されている。整理作業に携わる作業員の賃金も、ここから支弁されている。

地下鉄東西線機能補償に係わる発掘調査と、整理作業については、仙台市からの補償費を財源としている。上記のように、2007年度から任期付きで増員された文化財調査員1名（一般職員）と技術補佐員1名（准職員）の入件費と、東西線関係の調査に係わる整理作業を担当する作業員の賃金も、補償費を財源としている。

埋蔵文化財調査室の主要な業務は、調査委員会の設置以降、片平地区の生命科学研究所3階の一画を使用して行われている。ここには、室長室兼事務室、文化財調査員室、出土遺物の整理や報告書作成作業のための作業室、

表2 2007年度埋蔵文化財調査室職員

職名	氏名等	備考
調査室長	文学研究科教授 阿子島 香	併任
特任准教授	藤沢 敏	
専門職員	柴田 恵子	
専門職員	高木 純光	
一般職員	小原 一成	地下鉄東西線機能補償費を財源とした任期付職員
技術補佐員	准職員 百々 千鶴	地下鉄東西線機能補償費を財源とした任期付職員
事務補佐員	時間雇用職員 渡辺 三夫	埋蔵文化財調査室運営費を財源とした職員
整理作業員	時間雇用職員 6名（過年4名・短期2名）	全学的基盤経費を財源とした職員
整理作業員	時間雇用職員 5名（9月～3月）	地下鉄東西線機能補償費を財源とした職員



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 川内A遺跡 4 : 川内B遺跡 5 : 桜ヶ岡公園遺跡 6 : 青葉山B遺跡 7 : 青葉山E遺跡
- 8 : 青葉山C遺跡 9 : 青葉山A遺跡 10 : 青葉山D遺跡 11 : 芦ノ口遺跡 12 : 片平仙台大神宮の板碑 13 : 郷六大日如来の碑
- 14 : 蔴岡城跡 15 : 郷六城跡 16 : 郷六建武碑 17 : 沼田遺跡 18 : 郷六御殿跡 19 : 郷六遺跡 20 : 松ヶ岡遺跡
- 21 : 向山高塚遺跡 22 : 萩ヶ丘遺跡 23 : 茂ヶ崎城跡 24 : ニッ沢横穴墓群 25 : 萩ヶ岡B遺跡 26 : 八木山緑町遺跡
- 27 : ニッ沢遺跡 28 : 青山二丁目遺跡 29 : 背山二丁目B遺跡 30 : 杉土手(鹿除土手) 31 : 砂押屋敷遺跡 32 : 砂押古墳
- 33 : 富沢遺跡 34 : 泉崎浦遺跡 35 : 金洗沢古墳 36 : 土手内窓墓 37 : 土手内遺跡 38 : 土手内横穴墓群 39 : 三神峯遺跡
- 40 : 金山窓跡 41 : 三神峯古墳群 42 : 富沢窓跡 43 : 萩町東遺跡 44 : 萩町古墳 45 : 原東遺跡 46 : 原遺跡 47 : 八幡遺跡
- 48 : 後田遺跡 49 : 町追跡 50 : 神渡山遺跡 51 : 御堂平遺跡 52 : 上野山遺跡 53 : 北前遺跡 54 : 佐保山東遺跡

図1 東北大學と周辺の遺跡

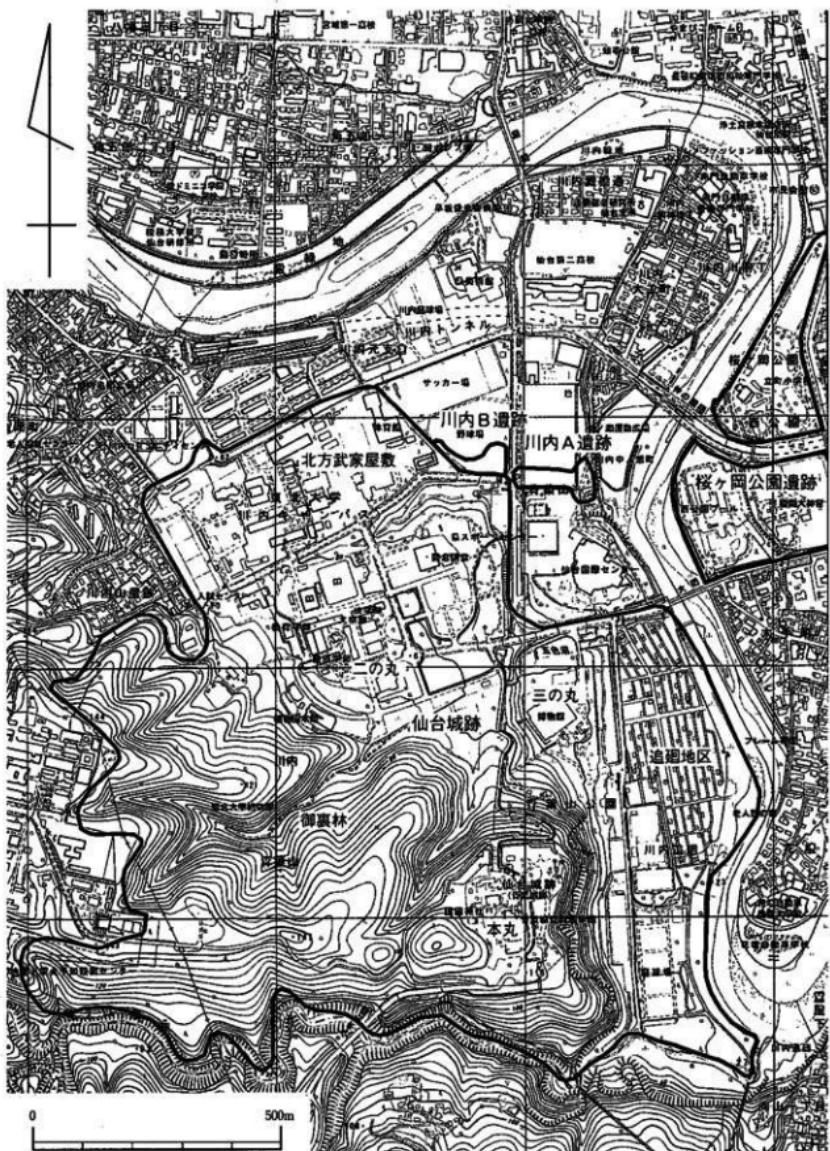


図2 仙台城と二の丸の位置

調査記録や出土遺物の中でも報告書に図示された遺物を収藏する部屋が置かれている。使用している部屋の合計面積は、175m<sup>2</sup>である。

これ以外に、保存処理の作業は、2001年度に生命科学研究科の南側に設置された作業棟（プレハブ平屋建・79m<sup>2</sup>）を利用している。また、ガレージの一部の34m<sup>2</sup>を使用しており、調査室用の公用自動車を保管している他、保存処理用の大型水槽を設置している。

出土遺物の中でも、報告書に図示され、借用や調査依頼の多い資料については、前述のように生命科学研究科3階に収蔵している。それ以外の遺物については、片平構内の空き教室を利用していた。2003年度に、出土遺物の収蔵庫として保管倉庫（プレハブ2階建・202m<sup>2</sup>）が作業棟の南側に設置され、専用の収蔵場所が確保されるようになった。

以上の片平構内の施設以外には、川内南地区に、発掘調査用の資材倉庫（プレハブ平屋建・58m<sup>2</sup>）がある。

### 3. 運営委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査室では、運営に関する重要事項を審議する運営委員会と、運営委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されており、委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営委員会は年度当初に一回開催し、そこで年間の事業予定・予算等などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

2007年度（平成19年度）は、運営委員会は1回開催した。6月に開催した運営委員会は、例年開催している年度当初の委員会である。今年度は、調査部会は開催されなかった。

運営委員会の開催月日と議事内容は、以下の通りである。

#### 埋蔵文化財調査室運営委員会

6月27日 審議事項 (1) 平成19年度埋蔵文化財調査計画について

(2) 平成19年度調査室運営費について

(3) 平成19年度の整理作業計画について

(4) 非常勤講師の委嘱について

(5) その他

報告事項 (1) 文化財調査員及び准職員について

(2) 平成18年度埋蔵文化財調査結果について

(3) 平成18年度センター運営経費決算について

(4) 平成18年度の整理作業について

(5) その他

### III. 2007年度（平成19年度）事業の概要

#### 1. 埋蔵文化財調査の概要

2007年度は、本調査2件、試掘調査2件、立会調査16件を実施した（表3）。立会調査は、仙台市教育委員会と合同で実施している。2007年度は、通常の施設整備や営繕工事に伴う調査以外に、地下鉄東西線機能補償関係の調査も実施している。本調査の2件、立会調査の8件が、地下鉄東西線機能補償関係の事業である。

表3 2007年度調査概要表

調査の種類	地区	調査地点（略号）	原 因	備考	調査期間	面積（m <sup>2</sup> ）	時期
本調査	川内北	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11）	地下鉄東西線機能補償工事（川内サブアーナ様新宮）	補償	前年度から継続 4/1~9/10	1,401	近世
	川内北	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK12）	地下鉄東西線機能補償工事（屋外給排水設備その他）	補償	1/11~3/14	59.6	近世
試掘調査	青葉山	理学部・医学部厚生会館北側（2007-17）	理学部・医学部松林園跡整備工事		2/18~2/26	35	-
立会調査	川内南	国岱館2号館北側（2007-1）	文学研究科分室新宮工事		4/20	-	-
	川内北	共通実験棟北側（2007-2）	地下鉄東西線機能補償工事（駐輪場移転等の2・スロープ整備）	補償	5/28	-	-
	川内北	国際交流センター南側（2007-3）	市理文調査に伴う機能補償工事（駐輪場移転等）	補償	6/1~5	-	-
	川内北	国際交流センター南側、厚生会館北東側、ブルー東側（2007-4）	地下鉄東西線機能補償工事（駐輪場移転等の1）	補償	6/1~5, 7/3	-	-
	川内南	記念講堂南西側（2007-5）	給水管漏水復旧工事		7/25	-	-
	川内北	体育館西側・南東側（2007-6）	給水管敷設替え工事		7/26~27	-	-
	川内北	テニスコート東側一帯、課外活動施設東側（2007-7）	地下鉄東西線機能補償工事（駐車場整備その1）	補償	8/23~24・27, 9/3~13~20~ 21~25, 10/12	-	-
	川内南	文系中講義棟北・西・南側（2007-8）	屋外ガス配管改修工事		9/3	-	-
	川内北	学生相談所・保健管理センター北側（2007-9）	屋外案内板・駐車場看板取設工事		9/19	-	-
	川内南	文学研究科棟周辺から北側（2007-10）	文学研究科研究棟改修工事		10/16~18	-	-
	川内北	課外活動施設東側（2007-11）	地下鉄東西線機能補償工事（駐車場等整備その2・支障樹木伐採除根）	補償	10/18	-	-
	富沢	核理研電子ライナック実験棟東側（2007-12）	高周波電源棟新宮工事		11/12	-	-
	川内北	マルチメディア教育研究棟東側（2007-13）	車止取設工事		12/10	-	-
	富沢	核理研電子ライナック実験棟南側・西側（2007-14）	特高電圧受電設備改修工事		12/17	-	-
	川内北	体育館南側・西側、厚生会館北側・西側、グラウンド（2007-15）	地下鉄東西線機能補償工事（屋外給排水設備その他）	補償	12/17~19~21、 1/10~11~17~ 25, 3/10	-	-
	川内北	厚生会館北側（2007-16）	地下鉄東西線機能補償工事（駐輪場移転その3・駐輪場上屋取設）	補償	1/17	-	-
	川内北	テニスコート北側（2007-18）	古墳文調査に伴う樹木移植	補償	3/21~24	-	-
立会調査 (学内割り当て)	青葉山	地質予知センター（2007-①）	理学部地質予知センター地質観測孔その他の工事		5/14~20	-	-
	青葉山	工学研究科機械・知能系（2007-②）	工学研究科機械系教育実験棟新宮その他の工事		9/3, 2/18	-	-
	川波	川波地区乳牛舍南東側（2007-③）	複合生態フィールド教育研究センター牛舎他新宮工事		11/26	-	-
	青葉山	工学研究科電子エンジニアリング・工学西側（2007-④）	クラシックカー展示施設新宮工事		1/17, 3/12	-	-
	青葉山	工学研究科機械・知能系（2007-⑤）	工学研究科機械・知能系消防用水槽取設その他の工事		3/25~26	-	-

## (1) 川内北地区の調査

川内北地区では、本調査2件、立会調査11件を実施した(図3)。東西線機能補償に関わる屋外給排水設備その他工事については、本調査を実施した区域(仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点・略称BK12)と、立会調査で対処した区域(立会調査番号2007-15)の両方がある。これについては、立会調査部分も、本調査の項目の中で、併せて概要を述べる。

本調査を実施した2件の概要は、以下の通りである。

### ・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点 (BK11・川内サブアリーナ棟新営に伴う調査)

本調査の1件は、地下鉄東西線建設によって取り壊される武道場や第二食堂などの機能補償のために建設されることとなった川内サブアリーナ棟新営に伴う、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点 (BK11) の調査である(図4)。この調査は、前年度の2006年10月から調査を開始しており、2007年度に継続したものである。

機能補償による川内サブアリーナ棟は、体育館と第二食堂の間の、多目的広場として利用されていた場所に建設されることとなった。補償建物の詳細な設計が完了しておらず、規模や位置がおおよそ決定していた状態であったが、仙台市の地下鉄工事スケジュールとの関係もあり、早急に調査に着手する必要があった。そのため600m<sup>2</sup>について、先行して調査を開始することとし、2006年10月2日から重機による掘削を開始し、10月10日から作業員を投入した精査に入った。その後、建物計画の詳細が確定したのに伴い、12月1日から416m<sup>2</sup>について追加の重機掘削を行い、調査範囲を拡大した。

1・2月は、嚴冬期に入るため、少人数の人員で、遺構の精査を小規模ながら実施した。また、調査区東側に確保していた通路を移動する目次がたたため、2月14日から仮掘いの位置を移動し、375m<sup>2</sup>について更に追加の重機掘削を行った。これによって、合計の調査面積1,401m<sup>2</sup>の内、重機の進入が難しく手掘りで掘削することとなった10m<sup>2</sup>を除く1,391m<sup>2</sup>について、2006年度に調査に着手したこととなった。3月からは作業員を増員し、本格的な調査を再開した。

2007年度の調査は、3月からの作業をそのまま引き継ぎ実施した。仮設作業小屋などで重機の進入が難しく、手掘りで表土掘削を行うこととなり残されていた10m<sup>2</sup>については、4月17日から23日の期間に盛土を除去した。これにより、調査面積1,401m<sup>2</sup>の全てで、精査に着手することとなった。

新年度より、補償費を財源とした任期付き職員として、文化財調査員1名(一般職員)と技術補佐員1名(准職員)が増員され、調査体制が強化された。また、年度当初より、測量業務を国際航業株式会社文化事業部に委託し、同社の測量担当者1名が現地に常駐して測量作業を行うこととなった。また、埋蔵文化財調査室の文化財調査員2名が、冬期間に小型車両系整地等特別教育を受講した。これにより、小型油圧シャベルをリースで借り、特別教育を受講した文化財調査員が操縦して、調査を進めることとした。小型油圧シャベルは、搅乱の除去などの際に威力を発揮した。

調査期間は、建築工事の行程との関係で、当初は7月末までの予定であった。上記のように調査体制を強化したが、多数の遺構が検出されたことなどから、調査は予定より遅れ気味であった。建築工事の準備作業が遅れたことから、発掘調査を実施できる期間に余裕ができたため、関係機関と協議の上、8月末まで調査期間を延長することとした。作業員を投入した作業は、予定通り8月末で終了した。その後、図面の点検など若干の残務を行い、9月10日で調査の一切を終了した。また、調査成果の概要が明らかとなった8月4日には、現地説明会を開催している(図13)。

検出遺構は、ピット768基、大型の遺構31基、井戸8基、溝16条などであった。地鎮遺構も1基確認されている(表紙写真)。遺物は、陶磁器類や瓦、木製品などが、コンテナ165箱出土した。江戸時代初頭から明治時代初頭にかけての各時期のものが出土している他、縄文時代の石器や古代の須恵器や瓦も少数出土している。

地下鉄東西線機能補償関係の調査は、整理作業や報告書刊行を含めて、仙台市からの補償費を財源として実施



图3 川内北地区调查地点



図4 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点調査状況（8月7日、古期大型遺構の掘り下げ前）

したものである。そのため、地下鉄東西線機能補償関係の調査成果をとりまとめた報告書を、2010年度に別途刊行する予定である。この武家屋敷地区第11地点の調査については、次に概略を述べる武家屋敷地区第12地点の調査成果を含めて、そちらに掲載する予定である。

・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK12・2007-15、東西線機能補償屋外給排水設備その他）

川内北地区の給水管は、北東隅にポンプ室があり、そこから敷地北端の市道脇を通り、武道場の西側から南に折れ、体育館西側を通って厚生会館北側へと続いている。この給水管が地下鉄工事の支障となるため、サッカー場と野球場の間を通り、体育館南側を経て厚生会館北側ヘルートを変更することになった。体育館から厚生会館の周辺区域では、場所によっては遺構面に掘削が達する可能性があったため、できる限り既存管の掘り方を利用して埋設することとした。しかしながら、管路の接続部分など、既存管掘り方を利用できない部分では、掘削が遺構面に達する可能性が考えられた。そのため、工事実施時に立会調査を行い、既存管掘り方からはずれ、掘削が遺構面に達する場合には、工事を中断し、記録保存のための本調査を実施することとした。また、東側のグラウンド部分については、周知の遺跡の範囲からは外れるが、念のため立会調査を実施することとした。

工事の進行と併行し、1月11日から3月14日にかけて、断続的に調査を実施した。3ヶ所（1・3・4区）で、明治時代初頭の地層（2層）や地山が残存しており、手掘りによる精査を行った（図5）。調査面積は、59.6m<sup>2</sup>である。体育館西側の一部で2層が残存しており、当初は2区として精査対象としたが、掘削が2層まで及ばないこととなり精査は行わなかった。これら以外は、既存管による既掘削範囲か、新しい盛土の範囲内であった。

本調査を実施した区域は、調査順に1・3・4区とした。1区ではピット7基を検出した他、北側部分に2層が残存していた。3区はほとんどが搅乱されていたが、東端部分と西端部分で2基の遺構を検出した。4区ではピット3基を検出し、東側部分で2層が残存しているのを確認した。遺物は陶磁器類や瓦が少量出土した。

本調査を実施した部分については、別途刊行する地下鉄東西線機能補償関係の調査成果をとりまとめた報告書において詳しく報告する。

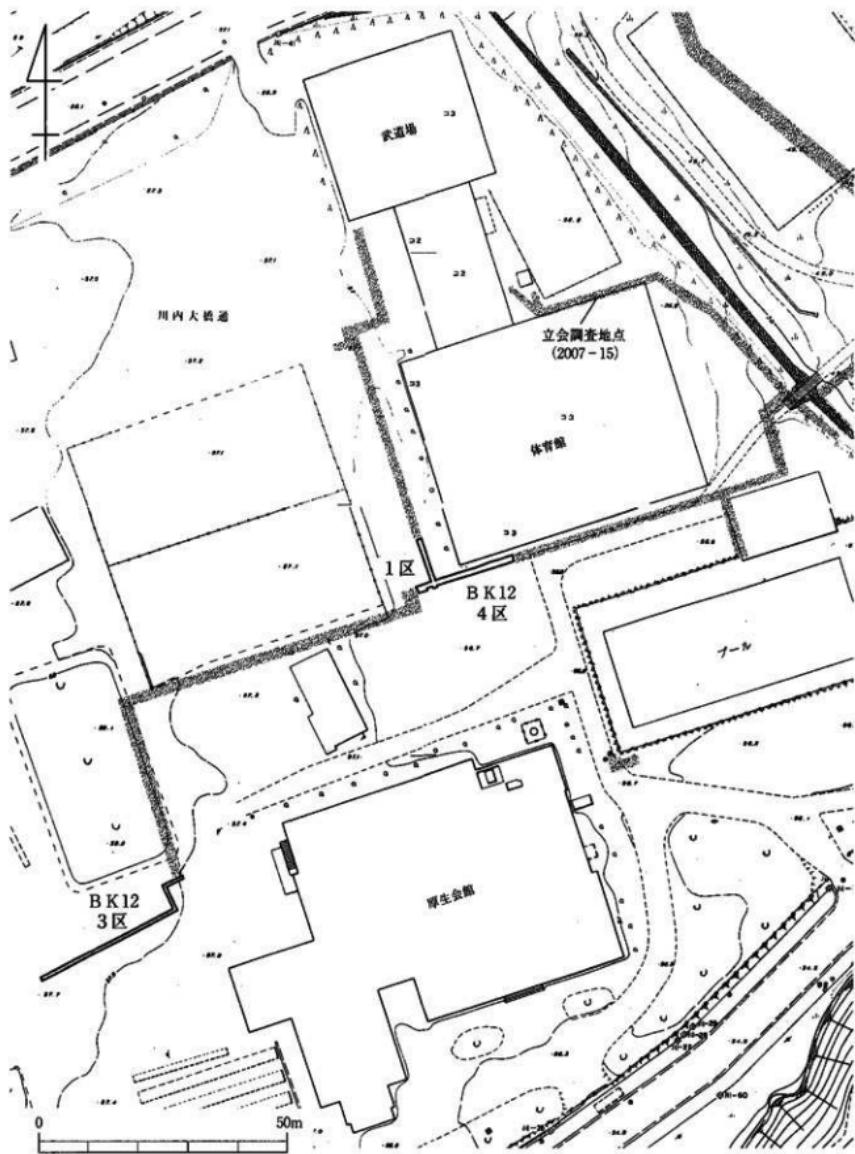


図5 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点調査区の位置

立会調査を実施した、残る10件の概要は、以下の通りである。

・東西線機能補償による駐輪場移転等その2（スロープ整備、2007-2）

地下鉄東西線によって、従来の敷地の北端が失われるため、川内北地区全体で、駐輪場や駐車場の再配置が必要となった。2007年度には、地下鉄工事に先立つ市教委による埋蔵文化財調査も開始され、それらの工程の関係上、早急に事業を進めていく必要があった。そのため、工事の条件と計画が整った部分から、順次事業発注がなされ、土木工事の届出がなされ、立会調査を実施していくこととなった。なお立会調査については、実施した順序で番号を付けており、届出の順番とは一致していない。

この工事は、共通実験棟北側の段差のあるところを通っている、駐輪場へ至る通路のスロープ部分を整備する工事である。擁壁基礎の掘削（深さ30cm）と、舗装を直すための掘削（深さ25cm）が行われたが、いずれも浅いため、新しい盛土の範囲におさまり、特に問題はなかった。

・市埋文調査機能補償による駐輪場移転等（2007-3）

地下鉄東西線工事に先立つ、仙台市教育委員会による埋蔵文化財調査が実施されるため、調査対象区域に置かれていた駐輪場を移設するための工事である。川内北地区的北西よりの場所にある国際交流センターの南側一帯に駐輪場を整備する工事である。既存舗装を撤去し、舗装をやり直すもので、掘削深さはいずれも30cm以下の浅いものであった。掘削は、新しい盛土の範囲内におさまり、問題はなかった。

・東西線機能補償による駐輪場移転等その1（2007-4）

上記した市埋文調査機能補償によって移転する駐輪場（立会調査番号2007-3・駐輪場1）に外灯を設置する工事と、厚生会館北東側にある駐輪場に上屋を設置するための基礎工事（駐輪場2）、ブルの東側に駐輪場を設置する工事（駐輪場3）である。駐輪場1では、外灯基礎の設置と電気ケーブル配管埋設の工事が行われた。外灯基礎は、深さ1mを超える掘削が行われたが、盛土が厚い場所であったためか、新しい盛土におさまった。電気ケーブル配管埋設は、深さ40cm以下と浅いため問題はなかった。駐輪場2では、基礎ブロックが埋設されたが、深さが20cm程度とごく浅く、問題はなかった。駐輪場3は、舗装を行う工事のため、掘削される深さは30cm以下で、こちらも問題はなかった。

・体育館西側・南東側給水管敷設替え工事（2007-6）

既存給水管が老朽化したのに伴う、給水管の敷設替え工事である。体育館の西側と東側の2ヶ所、および第二食堂の周辺で、従来とは異なる経路で敷設されることになった。既存管との分岐部分以外は、35~47cmの深さで施工されることになった。周囲のこれまでの調査結果から、この程度の深さであれば、新しい盛土の中に収まる可能性が高いと判断し、立会調査で対処することとした。掘削は新しい盛土の範囲内で、特に問題はなかった。

・東西線機能補償による駐車場整備その1（2007-7）

川内北地区の西端に近いテニスコートの東側一帯と、北地区東側の課外活動施設の東側の2ヶ所に、駐車場を整備する工事である。テニスコート東側では、舗装、外灯設置と電気ケーブル埋設、花壇の移設と花壇用の給水管埋設、車止めやフェンスの設置などの工事が行われた。外灯基礎の掘削が1m前後と深い以外は、比較的浅い掘削であった。新しい盛土がやや厚いためか、掘削は盛土の範囲におさまった。課外活動施設東側では、舗装工事だけで、掘削は30cm未満とごく浅く、問題はなかった。

・学生相談所・保健管理センター北側屋外案内板・駐車場看板取設工事（2007-9）

川内北地区の南西よりに所在する学生相談所と保健管理センターの北側に、案内板と看板を設置する工事である。基礎掘削の範囲はごく狭く、深さも35cm程度と浅いため、立会調査とした。掘削は新しい盛土の範囲内で、問題はなかった。

・東西線機能補償による駐車場等整備その2（支柱樹木伐採除根、2007-11）

東西線機能補償による駐車場整備その1（立会調査番号2007-7）において整備された課外活動施設東側の駐

車場の、さらに南側に接する区域の整備である。支障樹木を撤去し、周囲を舗装する工事である。掘削深さは27cm以下とごく浅く、問題は生じなかった。

・マルチメディア教育研究棟東側車止取設工事（2007-13）

川内北地区の中央部北側にあるマルチメディア教育研究棟の東側に、車止を設置する工事で、掘削範囲が狭く、深さも40cm程度のため、立会調査とした。掘削は新しい盛土の範囲内で、問題はなかった。

・東西線機能補償による駐輪場移転等その3（駐輪場上屋取設）（2007-16）

東西線機能補償による駐輪場移転等その1において上屋設置工事を実施した、厚生会館北東側の駐輪場（立会調査番号2007-4、駐輪場2）の西側に並んでいる駐輪場に、上屋を設置する工事である。上屋設置のための基礎と、併せて設置される雨水井・雨水溝・雨水管の部分が、掘削を伴う工事であった。いずれの掘削も、深さ50cm以下であったため、新しい盛土の範囲内におさまった。

・市埋文調査に伴う樹木移植（2007-18）

川内北地区の北東隅に近い場所に植えられていた樹木を、市教委による埋蔵文化財調査に先立って、移植する工事である。東西線工事対象区域の樹木のほとんどは伐採されたが、この地点のウツミザクラ2本とムラサキシキブ1本については、移植することとなった。盛土が厚いと考えられる場所であったため、立会調査とした。掘削は新しい盛土の範囲内で、問題はなかった。

## （2）川内南地区の調査

川内南地区では、立会調査4件を実施した（図6）。

・文学研究科分室新設（2007-1）

文学部・教育学部棟の耐震補強を含む全面改修工事が実施されることとなり、工事期間中の事務室の代替えスペースとして、簡易鉄骨造2階建の施設を附属図書館2号館の北側に建築することとなった。掘削を伴う工事は、建物基礎の掘削と、給水管、排水管、雨水管、電気・通信配管の埋設工事である。昭和60年度（1985年度）に調査を実施した、図書館増築に伴う二の丸第5地点の1区と5区（年報7）と、工事場所が一部重なっている。この調査によって、造構面の深さが判明していたので、造構面に掘削が及ばないよう、盛土で地盤をかさ上げした上で、建物が建設されることとなった。造構面への影響は避けられる見込みとなったため、立会調査で対処したこととした。工事による掘削は、新しい盛土の範囲におさまり、特に問題はなかった。なお今回建設された建物は、使用が終了した時点で、撤去されることとなっている。

・記念講堂南西側給水管漏水復旧工事（2007-5）

川内地区では、米軍時代に設置された給水管を、大学がそのまま使用している場所が多い。随時取り替えが進められてきているが、一部では米軍時代の給水管が残っている。今回の工事は、記念講堂の南西側で、米軍時代に設置された、消火栓につながっている給水管が腐食して漏水したのを復旧するための工事である。漏水箇所をさぐるために重機で表土を除去したところ、表土直下で地山面が露出し、そこに掘り込まれた給水管掘り方が検出された。給水管掘り方の幅が、予想以上に狭かったため、工事用重機を取り替え、掘り方の範囲内で工事掘削が行われる様子にした。造構・遺物は発見されていない。

・文系中講義棟周辺屋外ガス配管改修工事（2007-8）

文系中講義棟の北東側で、ガス管が腐食したのを復旧するための工事である。工事による掘削は、既存ガス管を埋設した際の掘り方の内部にとどまり、特に問題はなかった。

・文学研究科研究棟改修工事（2007-10）

文学部・教育学部棟の耐震補強を含む全面改修工事である。掘削を伴う工事は、構造補強の基礎設置とガス管の入れ替えであった。構造補強の基礎は、既存建物の基礎に接して造られ、既存基礎工事の際の掘り方内で工事

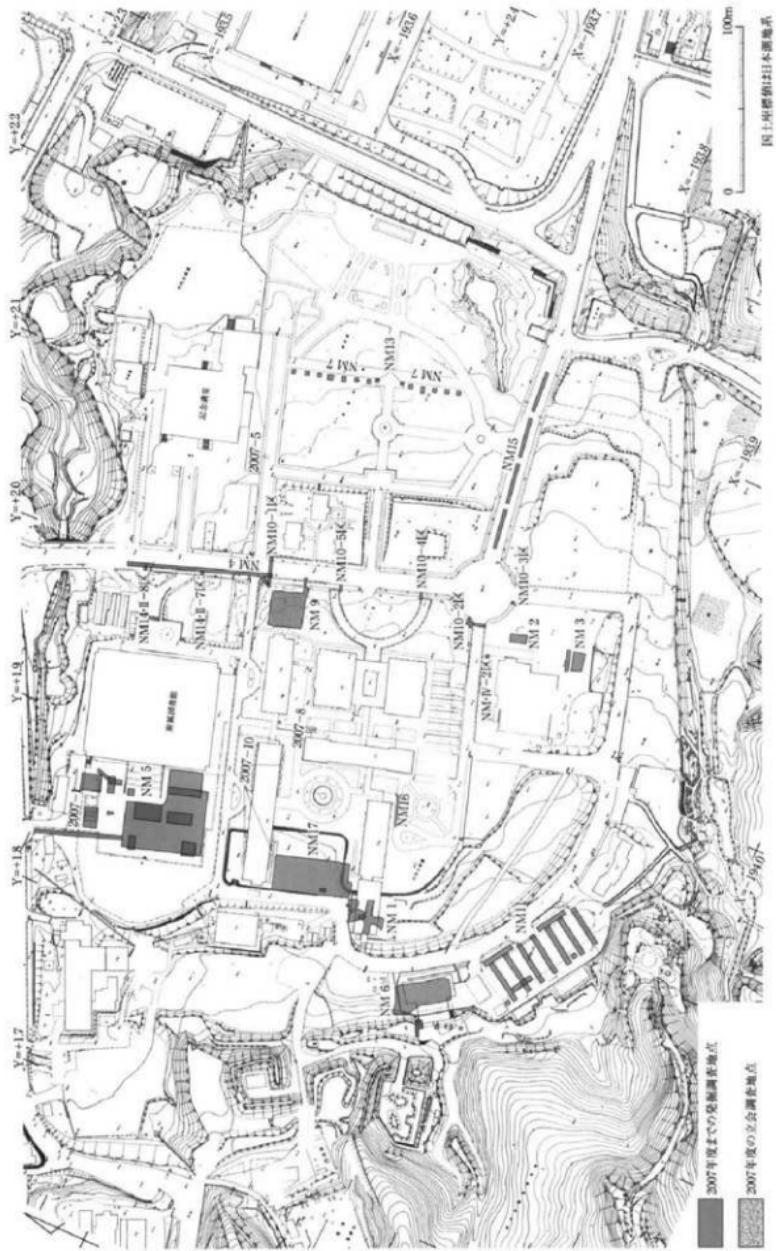


图6 川内南地区调查地点

が行われることとなった。ガス管の入れ替えは、既存ガス管の上部に埋設することとなった。いずれの工事でも、既に掘削された範囲におさまることから、立会調査で対処することとした。ガス管入れ替えでは、支障物のため、一部で既存掘り方からずれる場所に埋設されることとなったが、新しい盛土の範囲内であったため、特に問題はなかった。

### (3) 青葉山北地区の調査

理学研究科・薬学研究科などが所在する青葉山北地区では、試掘調査1件を実施した(図7)。

- ・理学部・薬学部松林園路整備に伴う試掘調査(2007-17)

試掘調査を実施したのは、理学部・薬学部厚生会館北側松林の園路整備工事に伴う調査である。

理学部・薬学部厚生会館の北側には、松林がある。周囲が削平され一段高い区域となっており、青葉山北地区では残り少ない、大きな改変が加えられていない場所である。この松林から南側の一帯が、青葉山B遺跡とされている。青葉山B遺跡では、松林の南側で、2回の調査が行われている(AOB1・AOB2、年報2)。これらの調査の際に発見された旧石器については、ねつ造された危険性が排除できず、歴史資料としての価値は否定される検証結果となっている(東北大理文センター2003)。一方これらの調査では、縄文土器・弥生土器・土師器などが出土しているため、ねつ造発見後の見直しで、縄文時代早期・縄文時代中期・弥生時代・古代の散布地として遺跡登録されている。松林の東側では、2002年度に応用薬学総合研究棟新営に伴い試掘調査を実施しているが、遺構・遺物は発見されていない(年報20)。厚生施設の南側でも2004年度に試掘調査が行われているが、ここでは大学造成時に大規模な盛土がなされていることが判っている(年報22)。

松林を散策できるようにするための環境整備工事が、平成18年度と19年度の2ヶ年にわたって行われることになった。前年度の平成18年度(2006年度)には、園路の整備、芝張り、外灯・橋設置、植栽などの工事が行われた。松林が周囲より一段高いため、入る部分に階段を3ヶ所設置する必要があり、この階段部分については、大きく削平されるため試掘調査を実施し(1~3区)、それ以外の区域については立会調査を行った(年報24)。いずれにおいても、遺構・遺物は発見されていない。

今年度は、2ヶ年目の事業として、園路の追加、水飲み場と給排水設備の設置、外灯設置などの工事が行われることになった。これらの工事の内、掘削規模が大きな工事は、北西側から松林に入る園路の階段部分と、水飲み場であった。そのため、この2ヶ所について試掘調査を行い、遺跡の状況を確認することとした。これら以外の園路、給排水設備、外灯などについては、工事による掘削範囲は浅いものや狭いものであることから、立会調査で対処することとした。

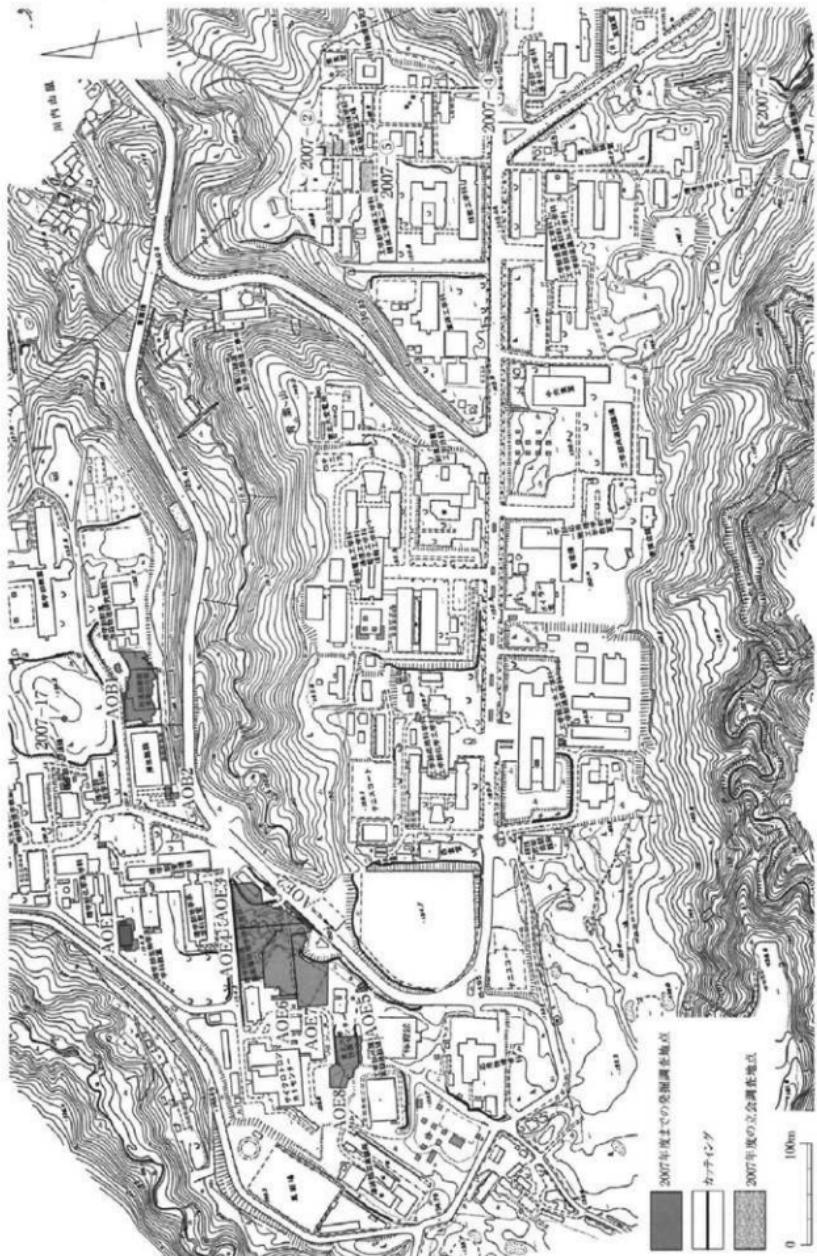
調査は2008年2月18日から26日の期間で実施した。前年度の調査区に統けて、北西側の階段部分を4区、水飲み場部分を5区とした(図8)。手掘りで表土を除去した上で、精査を行った(図9)。調査面積は、4区31m<sup>2</sup>、5区4m<sup>2</sup>の、合計35m<sup>2</sup>である。

4区では、南東端が戦前の陸軍演習場時代の塗壕と思われる溝状の掘り込みによって搅乱されていたが、それ以外の区域は、削平は受けていないものと思われる。しかし、遺物包含層は確認されず、遺構・遺物は検出されなかった。調査区北西端で、約1.5m×2mの深掘り部分を設けて、愛島軽石層の上部の風化した部分まで、ローム層の掘り下げを実施したが、遺物の出土はなかった。

5区では表土の下に漸移層は残されておらず、すぐにローム層上部が露出した。若干の削平を受けているものと思われる。ローム層上面で、楕円形の掘り込みが1基検出されたが、埋土にしまりが全く見られず柔らかいことから、新しい時期に掘り込まれたものと判断した。2m×1mの深掘り部分を設けて、川崎スコリアを含む地層までローム層の掘り下げを実施したが、遺物の出土はなかった。

これら以外の立会調査を実施した区域においても、遺構・遺物の発見はなかった。

図7 青葉山地区調査地点



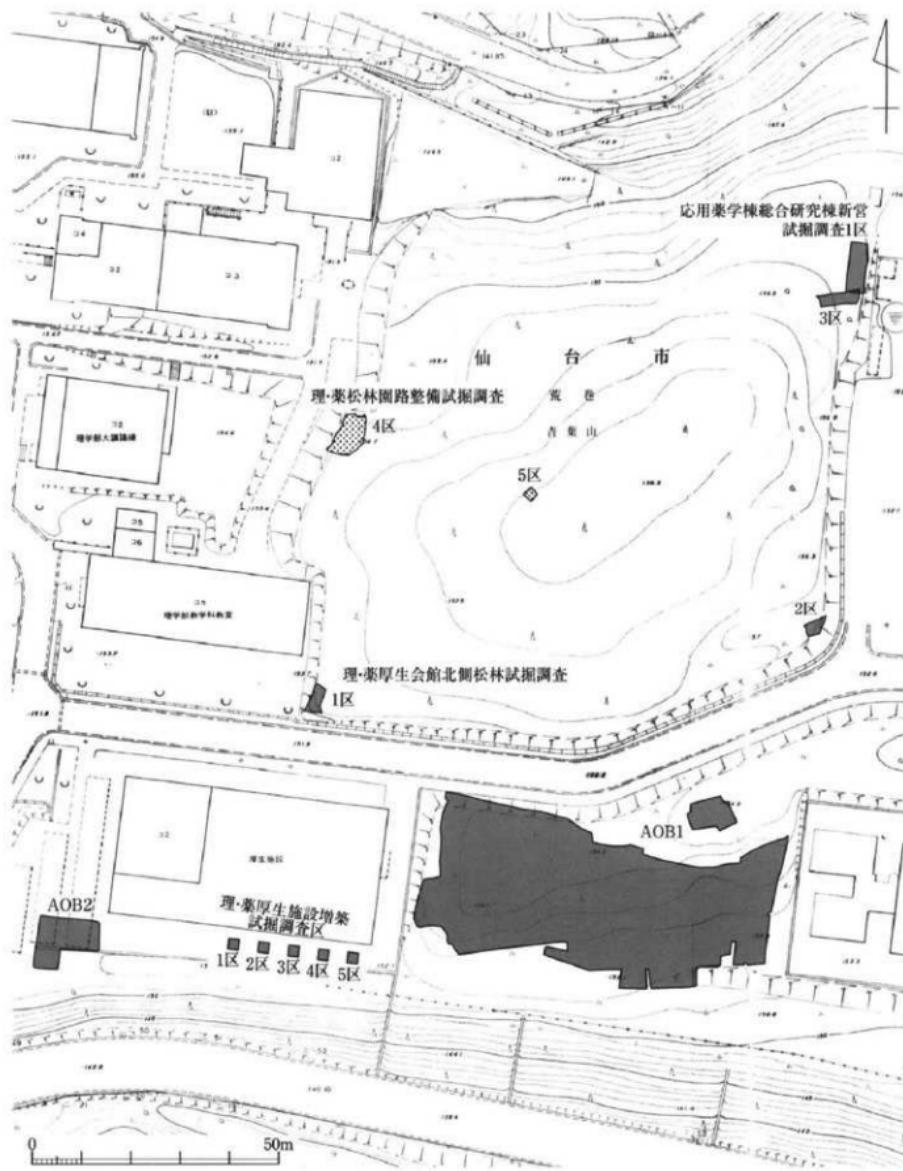


圖8 青葉山B遺跡試掘調查地點

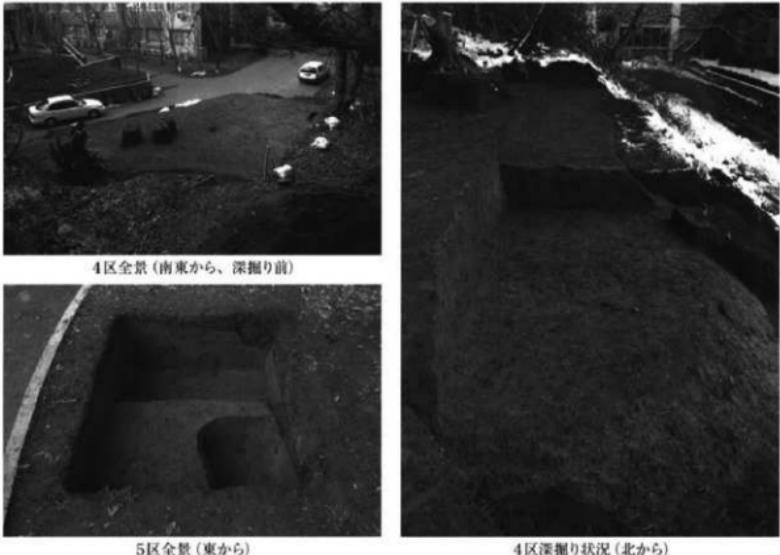


図9 青葉山日遺跡試掘調査状況

#### (4) 青葉山東地区の調査

工学研究科などが所在する青葉山東地区では、立会調査4件を実施した(図7)。青葉山東地区では周知の遺跡は知られておらず、青葉山北地区の周知の遺跡の範囲からも離れるが、ローム層が良好に残されている区域もあるため、学内での独自の措置として、立会調査を実施しているものである。

- ・地震予知センター地震観測孔その他工事 (2007-①)

青葉山東地区の南東隅の、他の区域より一段下った場所に、地震予知センターが置かれている。そこに地震観測孔を設置する工事と、関連する通信ケーブルを埋設する工事に伴う調査である。一部でローム層が確認されたが、遺構・遺物は発見されなかった。

- ・工学研究科機械系教育実験棟新営その他工事 (2007-②)

青葉山東地区の北東隅の場所で、教育実験棟を新築する工事に伴う調査である。ローム層は比較的良好に堆積していたが、遺構・遺物は発見されなかった。

- ・工学研究科クラシックカー展示施設新営工事 (2007-④)

青葉山東地区のなかでも東よりの場所で、展示施設を新築する工事に伴う調査である。工事による掘削は、全て大学による盛土の範囲内であり、特に問題はなかった。

- ・工学研究科機械・知能系消防用水槽取設その他工事 (2007-⑤)

青葉山東地区の北東隅に近い場所で、消防用水槽の設置や、関連する給水管理設工事に伴う調査である。すでに改変を受け、新しい盛土がなされており、特に問題はなかった。

#### (5) 富沢地区の調査

理学研究科付属原子核理学研究施設（2009年12月から電子光理学研究センター）や職員宿舎が所在する富沢地区（仙台市太白区三神峯一丁目）では、立会調査2件を実施した（図10）。富沢地区では、ほぼ全域が芦ノ口遺跡の範囲内となっている。

- ・高周波電源棟新営工事（2007-12）

実験施設のための建物建築と、関連する電気配管、雨水管などの埋設に伴う調査である。建築予定場所は、昭和60年度（1985年度）に実施した、芦ノ口遺跡第1次調査のB区と一部重なる場所であった。このB区の調査結果から、大学施設建設時の盛土が1m程度の深さまであることが判明している。今回建築される建物は簡易鉄骨造平屋建のため、基礎掘削も比較的浅く、盛土の範囲内でおさめることができたため、立会調査で対処することとした。工事による掘削は、盛土の範囲におさまり、特に問題はなかった。

- ・特高変電所受電設備改修工事（2007-14）

特高変電所の改修に伴い、変電所と空調機械室棟との間の配管を埋設する工事に伴う調査である。既存配管の上部に埋設する形で工事が行われるため、立会調査で対処することとした。今回の工事による掘削は、既存配管埋設時に掘削された範囲に留まり、特に問題はなかった。

#### (6) 川渡地区的調査

宮城県北部の大崎市（旧鳴子町）鳴子温泉大口字蓬田ほかに所在し、農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センターの複合陸域生産システム部（旧附属農場）などが置かれている川渡地区では、立会調査1件を実施した（図11）。

- ・附属複合生態フィールド教育研究センター牛舎他新営工事（2007-③）

複合陸域生産システム部の本館（研究・管理棟）などのある区域から、北西約1kmに位置する乳牛舎などが置かれている区域が、上川原遺跡とされている。宮城県教育委員会が保管している埋蔵文化財包蔵地調査カードによると、縄文時代晩期の土器が採集されている。上川原遺跡では、平成5年度（1993年度）に、試掘調査を行っているが、多くの部分で削平を受け、ローム層の上位に存在する黒ボク土自体の残存状況がおしなべて悪く、遺構・遺物は確認されていない（年報11）。現在の施設建設時に、削平を受けているものと推定される。今回の工事は、牛舎の新築工事である。工事箇所は遺跡範囲の南東端に接する場所で、遺跡範囲からは外れていた。かつてため池が造られていた場所で、工事範囲のはほとんどは、大きく掘削されていた。ただし、工事範囲がため池より大きいため、外周部分では新たな掘削が行われることになった。そこで遺跡範囲外ではあったが、念のため、学内措置として立会調査を行うこととした。調査の結果、一部で黒ボク土が残存しているのが確認されたが、遺構・遺物は発見されなかった。

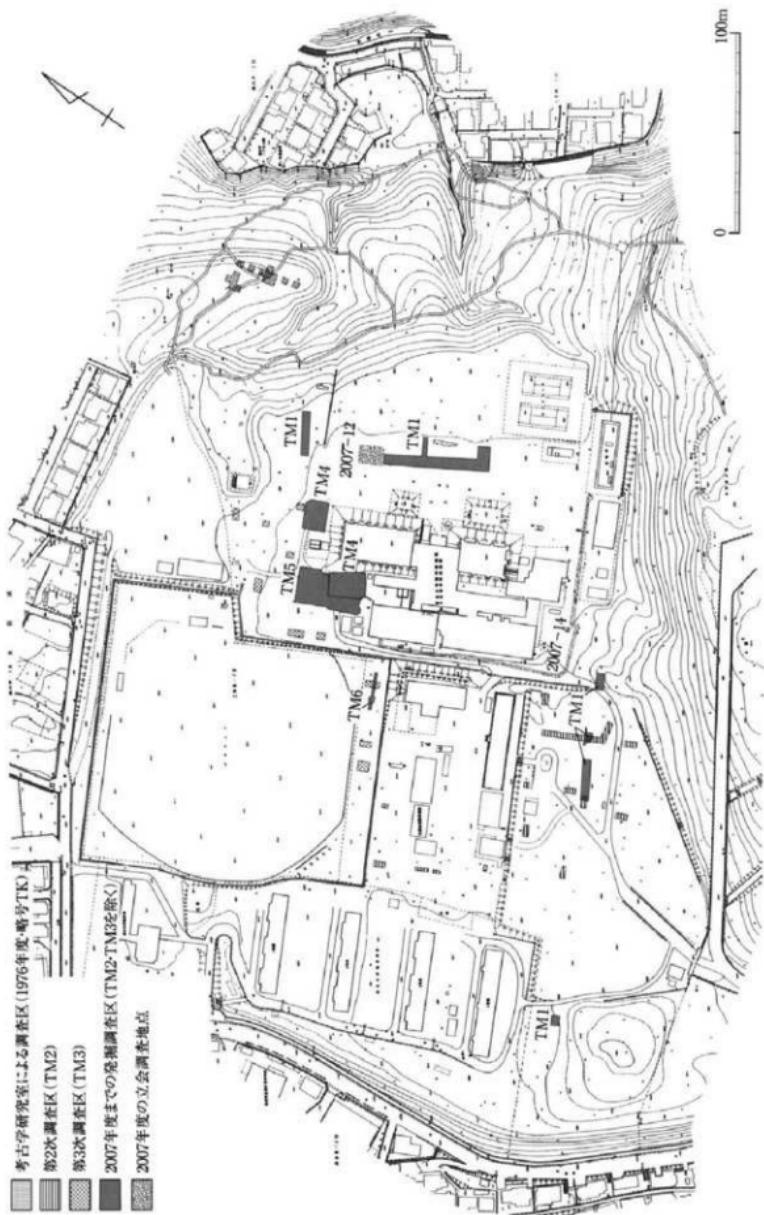


図10 富沢地区調査地点



- 1: 赤道遺跡（縄文）  
 2: 久田遺跡（縄文）  
 3: 大室遺跡（近世）  
 4: 上川原遺跡（縄文）  
 5: 丸森遺跡（縄文）  
 6: 東北大学農場2・3号掘遺跡（縄文）  
 7: 町西遺跡（弥生）  
 8: 町A遺跡（縄文・古代）  
 9: 町B遺跡（縄文）  
 10: 修驗院善教坊跡（近世）  
 11: 鐵治谷沢町宿駅跡（近世）  
 12: 鐵治谷沢検断跡（近世）  
 13・14: 町C遺跡（縄文・古代）  
 15: 眼音館跡（中世）  
 16: 石の梅古墳（古墳）  
 17: 住吉神社跡（中世）  
 18: 行藏院跡（近世）  
 19: 大西館跡（中世）  
 20: 小屋館跡（中世）

S=1:25,000

図11 川渡地区調査地点と周辺の遺跡

## 2. 遺物整理作業

2007年度は、「東北大学埋蔵文化財調査年報19第4分冊」と「東北大学埋蔵文化財調査年報22」の2冊を刊行した。

『東北大学埋蔵文化財調査年報19第4分冊』は、2001年度（平成13年度）に実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（マルチメディア総合研究棟新宮に伴う調査）の出土遺物の内、木製品・漆塗製品・金属製品・石製品を掲載した。二の丸北方武家屋敷地区第7地点の出土遺物が膨大なため、年報19は5分冊に分けて刊行することとしている。出土遺物については整理作業が終了したものから、順次刊行することとした。2005年度に武家屋敷地区第7地点の検出遺構までを掲載した第1分冊を刊行し、2006年度に木筒と墨書きある木製品を掲載した第3分冊を刊行している。2007年度は、木製品・漆塗製品・金属製品・石製品について作業が終了したため、これらを掲載した第4分冊を刊行した。

『東北大学埋蔵文化財調査年報22』は、2004年度（平成16年度）に実施した調査成果や、年度事業の概要をとりまとめたものである。2004年度は、本調査は実施していないが、試掘調査1件、立会調査4件を実施している。理学部・薬学部厚生施設増設に伴う試掘調査については、遺構・遺物は確認されていないので、概要をとりまとめ報告した。

整理作業としては、上記報告書に掲載した調査について、2件の作業を併行して行った。

### ・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）

2001年度に調査を行った、マルチメディア総合研究棟新宮に伴う出土遺物の整理作業である。江戸時代の各時期の、多種多様な遺物が大量に出土しており、2002年度より整理作業を継続して行っている。当年度は、各種遺物のトレースや写真撮影などの作業を実施した。木製品・漆塗製品・金属製品・石製品については、調査年報19第4分冊にとりまとめて掲載した。

### ・2004年度（平成16年度）當緒工事等に伴う調査

2004年度は、理学部・薬学部厚生施設増設に伴う試掘調査1件、立会調査4件を行っている。これらの調査では遺物は出土していないが、調査面図の整理やトレース、写真整理などを行った。その成果については、調査年報22にとりまとめて掲載した。

これらとは別に、地下鉄東西線機能補償費を財源として、東西線関係の調査に関わる整理作業も実施した。川内サブアリーナ棟新宮に伴う仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点の調査が終了したため、9月より整理作業を開始した。今年度は、出土遺物の洗浄や注記などの基礎的作業を実施した。

## 3. 保存処理事業

東北大学埋蔵文化財調査室では、仙台城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品など、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この内、木製品と金属製品については、当調査室で保存処理を進めている。木製品については、1997年度以降、糖アルコール法によって処理している（年報16）。

2007年度は、前年度から開始した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（2001年度調査・BK7）の出土木製品の処理を継続して実施した。武家屋敷地区第7地点から出土した木製品は、木筒を含め膨大な数量にのぼるため、4~5ヶ年間が必要となる見込みである。2007年度は、前年度に引き続き、箸、下駄、木筒など各種の木製品の処理を行った。また、当年度に調査した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点でも、処理の必要な有機質遺物が出土している。その中で、植物繊維で編まれた俵2点など、大型の遺物の処理を開始した。

金属製品では、2000年度に調査を実施した仙台城跡二の丸第17地点出土の銅製品の処理を、前年度に引き続いだ。これにより、二の丸第17地点の銅製品の処理は終了した。

#### 4. 資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査室では、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンボックス#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。全体の遺物総量を把握するために、容器の大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品など保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、これには含まれていない。東北大学埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、表4と図12である。

2007年度末時点で、当調査室で保管している遺物総量は2,788箱である。前年度と比較すると、70箱の減少となっている。

2007年度の調査によって新たに増加した箱数は、166箱である。仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11）の調査によるものが165箱である。仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK12）の調査によるものが1箱である。

2007年度は、調査年報19第4分冊と調査年報22を刊行した。

調査年報19第4分冊では、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（B K 7）の出土遺物の内、木製品・漆塗製品・金属製品・石製品を報告し、これらについて整理作業が終了したこととなる。これらの遺物の内、木製品と漆塗製品については、水漬け状態のまま取り上げている。2006年度に報告書を刊行し整理作業が終了した木簡や墨書ある木製品も含めて、水漬け状態で取り上げた遺物については、当年度で整理作業が終了したこととなる。未整理箱数は、これらの整理作業が終了したことによって、352箱が減少した。一方、これらの資料の整理後の箱数は116箱となっており、整理前と比べて236箱の減少となっている。これは、水漬け状態で取り上げたため、一つの箱に入っていた遺物量が限られるため箱数が多くなっていたことと、整理後に保存処理にまわり別扱いとなったため、整理後の箱数に入っていないものが多く存在するためである。水漬け状態で取り上げた木製品・漆塗り製品は、ほとんどが保存処理を行う必要があり、整理作業の終了後に順次処理にまわし別扱いとした。保存処理を行った遺物は別に保管しているため、ここの箱数の集計には入っていないこととなる。

調査年報22では、2004年度の事業概要を報告した。この年度には、遺物の出土した調査はなかったため、遺物箱数の増減はない。

これらを合わせると、未整理箱数は、整理作業終了による減少が352箱、新たに調査で増加したものが166箱で、差し引き186箱の減少となった。一方、整理済の箱数は、合計116箱増加した。全体では70箱の減少で、2,788箱となる。この内、2,507箱が整理・報告済みで、未整理は281箱となる。整理・報告済みのものの比率は89.9%である。

#### 5. 研究活動

##### (1) 受託研究・共同研究等

2007年度は、下記の受託研究1件を実施した。

受託者：岩手県山田町長 沼崎喜一（担当：教育委員会社会教育チーム文化担当）

研究課題：房の沢古墳群出土品保存処理についての研究

研究目的：山田町房の沢古墳群から出土した鉄製品（鉄製刀・刀子13点）を恒久的に保存するため、有効な保存処理方法（脱塩処理および樹脂含浸による強化と修復）の研究を行う。

研究費：2,196,600円

岩手県山田町の房の沢古墳群は、8世紀を中心に築造された末期古墳で、豊富な鉄製品が出土している。1996・1997年度に発掘調査され、出土鉄製品は、1997年度に保存処理が施されていた。しかし、脱塩処理が不充

表4 年度ごとの収蔵遺物箱数の推移

年 度	未整理箱数	整理箱数	合計箱数	備 考
1983	104	0	104	
1984	4	104	108	年報1(1983年度調査分)刊行
1985	113	108	221	年報2(1984年度調査分)刊行
1986	245	108	353	
1987	293	108	401	
1988	920	108	1,028	
1989	811	221	1,032	年報3(1985年度調査分)刊行
1990	1,218	221	1,439	
1991	1,086	401	1,487	年報4・5(1986・87年度調査分)刊行
1992	463	1,028	1,491	年報6(1988年度調査分)刊行
1993	732	1,032	1,764	年報7(1989年度調査分)刊行
1994	742	1,032	1,774	
1995	861	1,032	1,893	
1996	469	1,439	1,908	年報8(1990年度調査分)刊行
1997	435	1,491	1,926	年報9・10(1991・92年度調査分)刊行
1998	236	1,774	2,010	年報11・12(1993・94年度調査分)刊行
1999	117	1,893	2,010	年報13(1995年度調査分)刊行
2000	751	1,926	2,677	年報14・15・16(1996・97・98年度調査分)刊行
2001	1,216	1,926	3,142	年報17(1999年度調査分)刊行
2002	1,234	1,926	3,160	
2003	491	2,370	2,861	二の丸第17地点整理後詰め直し等で箱数減少
2004	491	2,370	2,861	年報18(2000年度調査分)刊行
2005	472	2,384	2,856	年報19・20(2001・02年度調査分)刊行
2006	467	2,391	2,858	年報19・21(2001・03年度調査分)刊行
2007	281	2,507	2,788	年報19・22(2001・04年度調査分)刊行

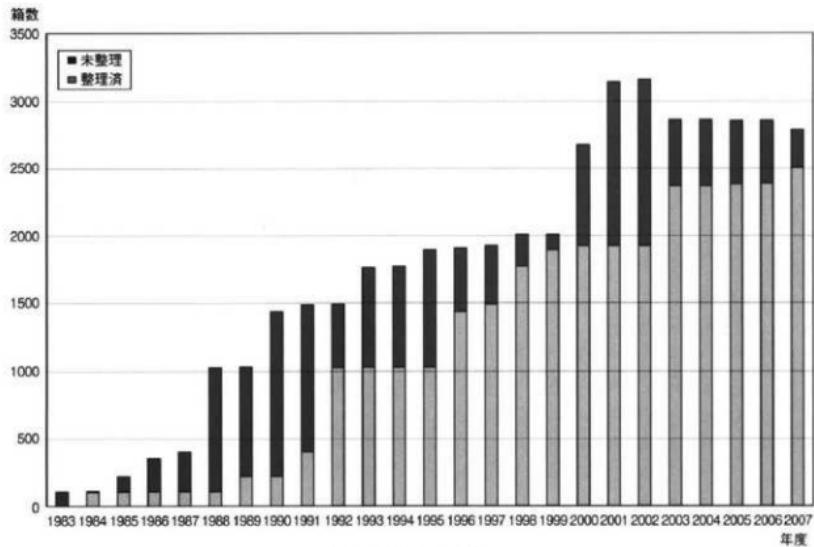


図12 収蔵遺物量の推移

分であったため、その後の経過観察によって進行性の腐食生成物が確認され、再処理が必要な状態となっていた。これらの鉄製品には、木質・繊維・漆など有機質が多数付着して遺存しており、通常の方法では再処理が困難であった。そのため、東北芸術工科大学の松井敏也講師（2004年から筑波大学大学院講師）・手代木美穂氏と協力しつつ、同古墳群出土鉄製品の内の5点の鉄刀について、再処理方法を検討し再処理を実践することを、東北大学生文化財調査研究センターが受託研究として担当することとなった。この受託研究は2003年度と2004年度の2ヶ年にわたって実施し、松井氏らによって開発された純水を利用した脱塩方法（松井敏也ほか2005）を採用することと、再処理を行うことができた。

房の沢古墳群からは、様々な種類の鉄製品が多数出土している。2ヶ年で再処理を実施したのは鉄刀5点のみであり、全体から見ればごく一部である。そのため山田町教育委員会では、国庫補助金を得て、残る房の沢古墳群出土鉄製品の再処理を、2005年度から2009年度にかけての5ヶ年で実施する計画を立てた。この再処理の実施を、当調査室が山田町からの受託研究として行うこととなった。本年度は新たな5ヶ年計画の3年目として、鉄製の刀と刀子13点を対象資料とした。この内、RT08古墳出土の方頭大刀については、鞘の表面に塗られた漆膜がきわめて良好に残存しており、通常の処理方法を採用すると、漆膜が剥落する危険性が高い。そのため、今年度は、処理の際に漆膜を保護する養生材を選定するためのモニタリングテストを実施することとした。養生材として、膠・パオゲン・バラロイドB72・バラロイドNADI0の5種類について、処理作業のそれぞれの工程で使用する溶液（精製水・アセトン・エタノール・ソルベントナフサ）ごとに、適否を検討することとした。モニタリングテストの検討結果については、報告書を別途作成した。

これ以外の12点の刀と刀子については、例年どおり、以下の手順で再処理を行った。

#### ①事前調査

- ・処理に先立って、資料の状態を調査し、必要な記録を作成する。

#### ②クリーニング

- ・前回処理の際に除去が不十分なまま残された鏽、および新たに生成した鏽を、除去する。

#### ③脱脂処理

- ・前回処理で含浸されている樹脂を除去するため、有機溶剤（アセトン）で洗浄する。

#### ④脱塩処理

- ・純水を用いて、資料中に残存している塩類を除去する。

・脱塩処理は、純水に資料を一定期間浸漬し静置したあと水を替える方法と、純水を滴下し同時に排水する流水法の2段階で行い、定期的に導電率を計測し評価しつつ進める。

#### ⑤脱水処理

- ・樹脂含浸に先立って、資料の水分を除去するよう、充分な乾燥を行う。

#### ⑥樹脂含浸

- ・資料全体を強化するため、アクリル系樹脂を減圧含浸する。

#### ⑦接合・修復・補色

- ・本体から分離した破片などを接合する。

- ・鏽で大きく損なわれた部分など、強化が必要な部分は、エポキシ系樹脂を充填して修復する。

- ・エポキシ系樹脂を充填した部分は、違和感がないような形で補色する。

#### ⑧報告書作成

- ・①～⑦の作業過程、及び結果をとりまとめた報告書を作成した。

#### (2) 学会発表等

調査室の業務にかかわる、学会での研究発表等としては、次の発表を行った。

- ・平成19年度宮城県遺跡調査成果発表会 2007年12月16日 於：仙台市博物館

「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点の調査」発表者：高木暢亮

また、宮城県考古学会からの依頼を受けて、同会の会誌『宮城考古学』第10号（2008年5月発行）の「2007年度宮城県内主要発掘紹介」に、「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点」として、同遺跡の調査概要を寄稿して紹介した。

#### (3) 科学研究費採択状況

2007年度において、当調査室の文化財調査員で、科学研究費等の交付を受けたものはなかった。

### 6. 教育普及活動

#### (1) 非常勤講師

2007年度に、当調査室の文化財調査員で、非常勤講師を担当したものは次のとおりである。

- ・藤沢 敦 東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学特論・各論（後期）「日本古代国家の周縁地域」
- ・藤沢 敦 宮城教育大学 考古学講義（後期）

#### (2) 授業など教育活動への協力

学内外での授業などの教育活動への協力としては、以下のものを行った。

- ・東北大学全学教育 科学と情報「考古学でとく『科学』以前の科学」発掘調査見学  
2007年6月21日 於：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点調査現場  
授業担当教官：深澤百合子（大学院国際文化研究科教授）  
調査室担当者：藤沢敦・高木暢亮
- ・東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学実習 保存処理実習  
2007年12月5日 於：埋蔵文化財調査室保存処理作業棟  
授業担当教官：阿子島香（文学研究科教授）・柳田俊夫（総合学術博物館教授）  
調査室担当者：藤沢敦・千葉直美

#### (3) 保管資料の貸出

調査室保管の資料の貸出依頼等としては、次のとおりであった。

- ・貸 出 先：多賀城市埋蔵文化財調査センター第21回企画展「考古学から見た環境問題」  
貸出資料：仙台城跡二の丸第5・9・14・17地点、二の丸北方武家屋敷地区第4地点出土陶磁器合計30点  
仙台城跡二の丸第17地点調査状況写真2点

展示期間：2007年10月2日～2008年1月27日

貸出期間：2007年9月21日～2008年1月31日

#### (4) 外部からの派遣依頼等

当調査室の業務に関わって、あるいは文化財調査員の専門領域に関わる事項で、外部から派遣等の依頼があったのは、次のとおりであった。

担当者：藤沢敦

- 2007年7月7日 東北大学植物園公開市民講座 前期「青葉山の歴史－1000万年前から今日まで」  
第4回講師「仙台城と伊達家」 於：東北大学植物園本館
- 2007年7月13日 第17回仙台城跡調査指導委員会 於：仙台市役所上杉分庁舎
- 2007年10月12日 第18回仙台城跡調査指導委員会 於：仙台市役所本庁舎
- 2007年9月27日 平成19年度第1回大安場古墳整備指導委員会 福島県郡山市役所本庁舎
- 2007年12月2日 青森県おいらせ町「阿光坊古墳群国史跡指定記念古代ロマントーク＆ライブ」講師  
「エミシ文化のシンボル－阿光坊古墳群」 於：おいらせ町市民交流センター
- 2008年3月14日 第19回仙台城跡調査指導委員会 於：仙台市役所上杉分庁舎
- 2008年3月29日 福島県棚倉町考古学講座講師 於：棚倉町文化センター  
「棚倉町湖麻沢古墳と古墳時代の骨角製品」

#### (5) 広報活動

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点の調査成果の概要が明らかとなった8月4日に、現地説明会を開催した（図13）。参加者は、約80名であった。なお一般公開に先立って、報道機関向けの発表を行っている。



図13 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点現地説明会開催状況

## 〈引用・参考文献〉

- 柴田恵子・高木暢亮・藤沢敦 2006 「第三〇編 埋蔵文化財調査研究センター」  
『東北大学百年史七 部局史四』pp.821~832 東北大学
- 仙台市教育委員会 1994 『仙台市青葉区文化財分布地図』
- 仙台市教育委員会 1995 『仙台市太白区文化財分布地図』
- 仙台市史編さん委員会編 2006 『仙台市史 特別編7 城館』仙台市
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1985~1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報』1~7
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997~2006 『東北大学埋蔵文化財調査年報』8~18、19-1、20
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2007~2010 『東北大学埋蔵文化財調査年報』19-2・3・4・5、21~24
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2003 『17宮城県仙台市青葉山B 18宮城県仙台市青葉山E』  
『前・中期旧石器問題の検証』pp.140~152 日本考古学協会
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2007 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点の調査』  
『平成19年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.49~54 宮城県考古学会
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2008 『2007年度宮城県内主要発掘紹介 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地  
点』『宮城考古学』第10号 p.210 宮城県考古学会
- 藤沢敦・千葉直美・柴田恵子・松井敏也・手代木美徳・川向聖子 2005 「岩手県山田町房の沢古墳群の保存処  
理済み鉄製遺物の再処理」『日本文化財科学会第22回大会研究発表要旨集』pp.308~309 日本文化財  
科学会
- 松井敏也・手代木美徳・松田泰典・川向聖子 2005 「繊維や漆が付着した保存処理済み鉄製遺物の再脱塩処理  
方法の検討」『日本文化財科学会第22回大会研究発表要旨集』pp.294~295 日本文化財科学会
- 宮城県教育委員会 1998 『宮城県遺跡地図』宮城県文化財調査報告書第176集

## IV. 資料

### 1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程

平成6年5月17日 規第56号

#### (趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

#### (目的)

第2条 調査室は、国立大学法人東北大学（以下「本学」という。）の特定事業組織として、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

#### (職及び職員)

第3条 調査室に、次の職及び職員を置く。

室長

文化財調査員

特任准教授

事務職員

その他の職員

#### (室長)

第4条 室長は、調査室の業務を掌理する。

2 室長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 室長の選考は、第6条に規定する運営委員会の議に基づき、総長が行う。

4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### (文化財調査員)

第5条 文化財調査員は、室長の命を受け、調査室の業務に従事する。

2 文化財調査員は、調査室の職員をもって充てる。

#### (運営委員会)

第6条 調査室に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

#### (運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 東北大学施設整備・運営委員会各地区キャンパス整備委員会の委員 各1人

二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人

三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は准教授で、その都度委員長が指名するもの

四 施設部長

#### (委員長)

第8条 委員長は、室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会の会務を總理する。

3 委員長は、必要があると認めるときは、運営委員会の同意を得て、委員以外の者を運営委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(調査部会)

第9条 運営委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、調査部会を置く。

(調査部会の組織)

第10条 調査部会は、部会長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 調査室の特任准教授
- 二 文化財調査員
- 三 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 四 施設部計画課長
- 五 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(部会長)

第11条 部会長は、室長をもって充てる。

2 部会長は、調査部会の会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第13条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(幹事)

第14条 運営委員会に幹事を置き、施設部計画課長をもって充てる。

(事務)

第15条 調査室の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、調査室の組織及び運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成6年5月17日から施行する。
- 2 東北大学埋蔵文化財調査委員会規程（昭和58年規第38号）は、廃止する。
- 3 東北大学公印規程（昭和46年規第17号）の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

附 則（平成16年4月1日規第207号改正）

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月26日規第80号改正）

- 1 この規程は、平成18年4月26日から施行し、改正後の国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程の規定は、平成18年4月1日から適用する。
- 2 平成18年4月1日（以下「適用日」という。）の前日にセンター長の任にある者は、適用日において改正後の第4条第3項の規定により室長となったものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成18年5月16日までとする。

附 則（平成19年4月1日規第76号改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

## 2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2007年度）

委員長 室 長（文学研究科 教授）	阿子島 香 厚
委員 施設整備・運用委員会川内キャンパス整備委員会委員（経済学研究科 教授）	平本 厚
施設整備・運用委員会青葉山キャンパス整備委員会委員（生命科学研究科 教授）	河田 雅
施設整備・運用委員会星陵キャンパス整備委員会委員（加齢医学研究所 教授）	近藤 丘
施設整備・運用委員会片平キャンパス整備委員会委員 （研究教育基盤技術センター教授）	青木 晴
施設整備・運用委員会南宮キャンパス整備委員会委員（農学研究科 教授）	山口 弘
文学研究科 教 授	今泉 隆
文学研究科 教 授	大藤 雄
理学研究科 教 授	藤巻 和
工学研究科 教 授	飯淵 康
総合学術博物館 教 授	柳田 俊
東北アジア研究センター 教 授	平川 新
施 設 部 長	山下 治
幹 事 施 設 部 企画課長	川田 裕

## 3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2007年度）

委員長 室 長（文学研究科 教授）	阿子島 香 厚
委員 文学研究科 教 授	今泉 隆
文学研究科 教 授	大藤 雄
理学研究科 教 授	藤巻 和
工学研究科 教 授	飯淵 康
総合学術博物館 教 授	柳田 俊
東北アジア研究センター 教 授	平川 新
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（特任准教授）	藤沢 敏
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	柴田 恵
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	高木 幡
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（一般職員）	小原 一
学生・支援部長	佐藤 成
施 設 部 企画課長	川田 裕

#### 4. 東北大埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

東北大埋蔵文化財調査年報

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大埋蔵文化財調査年報1	1985	昭和58年度(1983年度)事業概要 仙台城跡二の丸第1地点(NM1)	東北大埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第2地点(NM2)	
		仙台城跡二の丸第3地点(NM3)	
東北大埋蔵文化財調査年報2	1986	昭和59年度(1984年度)事業概要 青葉山E遺跡第1次調査(AOE1)	東北大埋蔵文化財調査委員会
		青葉山E遺跡第2次調査(AOE2・旧称AOF)	
		青葉山E遺跡第1次調査(AOE1)	
東北大埋蔵文化財調査年報3	1990	昭和60年度(1985年度)事業概要 仙台城跡二の丸第6地点(NM6)	東北大埋蔵文化財調査委員会
		芦ノ口遺跡第1次調査(TM1)	
		芦ノ口遺跡1976年考古学研究室による調査(TK) 研究編-東北地方における近世産業と南磁器をめぐる問題ほか	
東北大埋蔵文化財調査年報4・5	1992	昭和61年度(1986年度)事業概要 昭和62年度(1987年度)事業概要 仙台城跡二の丸第4地点(NM4)	東北大埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第7地点(NM7)	
		仙台城跡二の丸第8地点(NM8)	
東北大埋蔵文化財調査年報6	1993	昭和63年度(1988年度)事業概要 仙台城跡二の丸第5地点(NM5)	東北大埋蔵文化財調査委員会
東北大埋蔵文化財調査年報7	1994	平成1年度(1989年度)事業概要 仙台城跡二の丸第5地点(NM5)付帯施設部分	東北大埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第5地点(NM5)調査成果の検討	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点(BK5) 川渡農場西遺跡第1地点(KW1)	
東北大埋蔵文化財調査年報8	1997	平成2年度(1990年度)事業概要 仙台城跡二の丸第9地点(NM9)	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
東北大埋蔵文化財調査年報9	1998	平成3年度(1991年度)事業概要 仙台城跡二の丸第10地点(NM10)	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
		芦ノ口遺跡第2次・3次調査(TM2・TM3) 考察編-仙台城二の丸跡の考古学的調査-	
		平成4年度(1992年度)事業概要	
東北大埋蔵文化財調査年報10	1998	仙台城跡二の丸第13地点(NM13) 青葉山地区分布調査	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
		研究編-相馬藩における近世産業生産の展開	
		平成5年度(1993年度)事業概要	
東北大埋蔵文化財調査年報11	1999	仙台城跡二の丸第12地点(NM12) 仙台城跡二の丸第14地点(NM14)	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
		青葉山E遺跡第2次調査(AOE2)	
		平成6年度(1994年度)事業概要	
東北大埋蔵文化財調査年報12	1999	仙台城跡二の丸第15地点(NM15) 青葉山E遺跡第3次調査(AOE3)	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
		平成7年度(1995年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第11地点(NM11) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点(BK4)	
東北大埋蔵文化財調査年報13	2000	青葉山E遺跡第4次調査(AOE4) 研究編-東北大構内(仙台城二の丸跡)遺跡出土唐器資料の材質と製作技法	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
		平成8年度(1996年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点(BK6) 青葉山E遺跡第5次調査(AOE5)	
東北大埋蔵文化財調査年報14	2001	芦ノ口遺跡第4次調査(TM4)	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
		平成9年度(1997年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第16地点(NM16) 青葉山E遺跡第6次調査(AOE6)	

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報16	2001	平成10年度(1998年度)事業概要 研究編-総アルゴール含浸法における予備実験	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報17	2002	平成11年度(1999年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報18	2005	平成12年度(2000年度)事業概要 仙台城跡二の丸第17地点(NM17)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第1分冊	2006	平成13年度(2001年度)事業概要 声ノロ遺跡第5次調査(TM5)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 遺構	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第2分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第3分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 木簡・墨書きある木製品	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第4分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) その他の遺物	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第5分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 分析・考察	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報20	2006	平成14年度(2002年度)事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第8地点(BK8)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		青葉山E遺跡第7次調査(AOE7)	
		青葉山E遺跡第8次調査(AOE8)	
東北大学埋蔵文化財調査年報21	2007	平成15年度(2003年度)事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第9地点(BK9)	東北大学埋蔵文化財調査室
		声ノロ遺跡第6次調査(TM6)	
東北大学埋蔵文化財調査年報22	2008	平成16年度(2004年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報23	2009	平成17年度(2005年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報24	2010	平成18年度(2006年度)事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点(BK10)	東北大学埋蔵文化財調査室
		青葉山新キャンパス地区試掘調査	

#### 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度(2007年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度(2008年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室

---

---

**東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007**

平成22年9月27日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1  
TEL 022(217)4995

印刷 株式会社 東北プリント  
TEL 022(263)1166

---

---

# **Annual report in fiscal year 2007**

**Archaeological Research office on the Campus,  
Tohoku University**